

Ⅷ 支援団体ヒアリング

目的：子ども・若者支援団体が日ごろどのような相談に応じ、どのような課題・問題点を感じているのか。また、今後の支援施策に必要な視点について簡易的なヒアリング調査を実施した。

対象：子ども・若者支援団体に所属するスタッフ

内容：相談内容や支援の課題並びに今後の支援施策に必要な視点を把握する

標本数：12

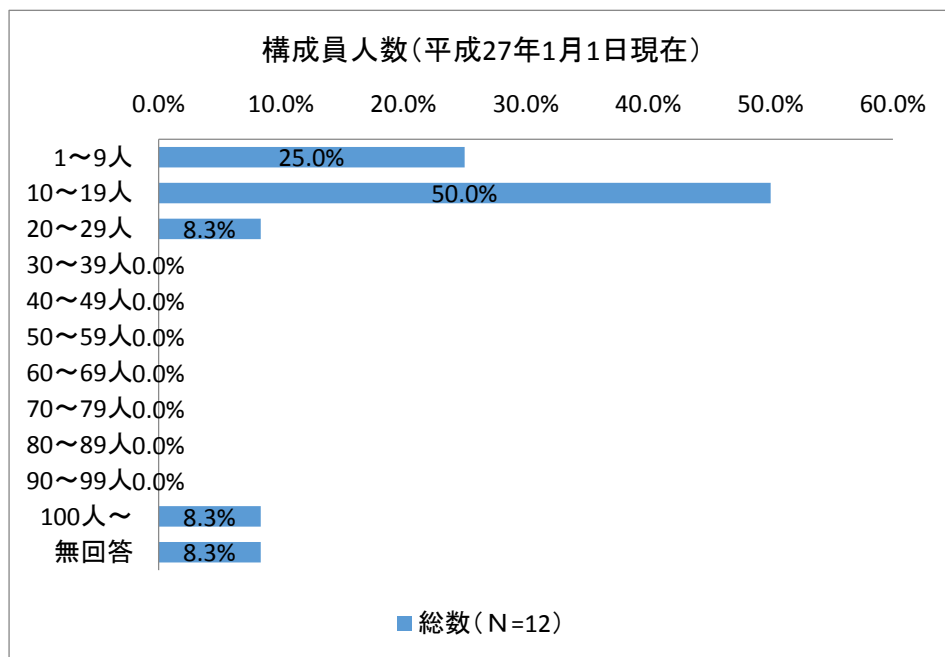
若者応援隊「まなざし」(5)、NPO法人なでしこの会(1)

朴の会(1)、NPO法人こころとまなびどっとこむ(1)

愛知県知多保健所(1)

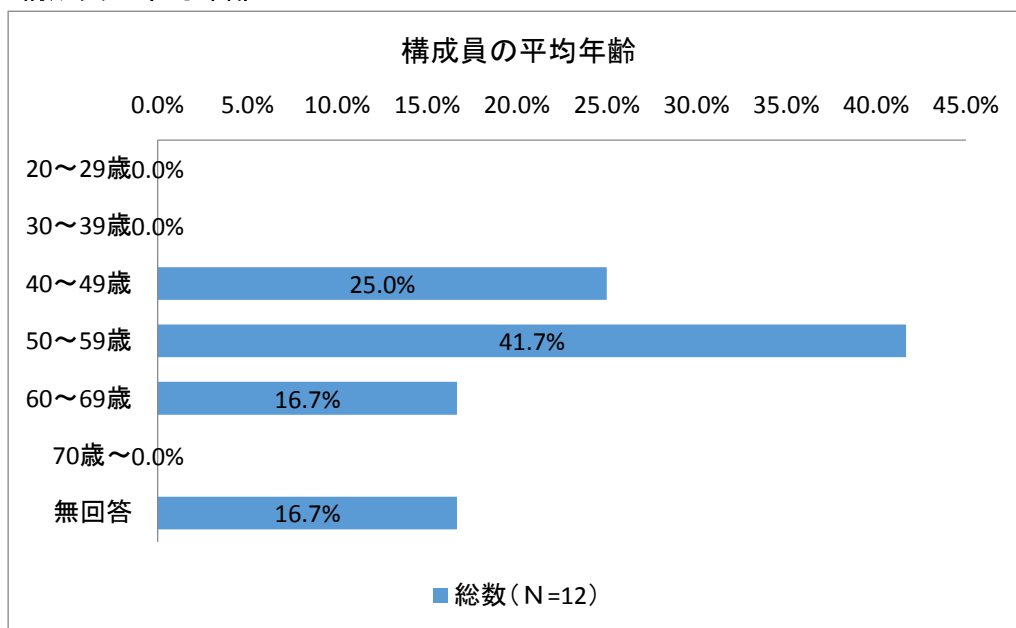
トウモロネット(不登校生・ひきこもりの方の明日を考える会(3))

1 団体の構成人数について



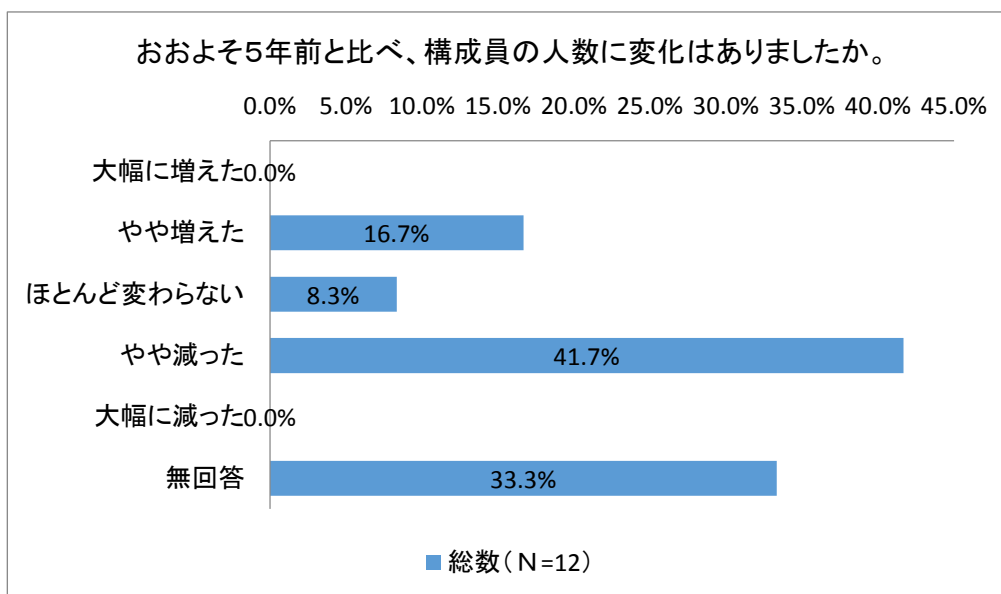
支援団体の構成員(スタッフ)は「10～19人」が50.0%、次いで「1～9人」が25.0%で全体の75.0%が19人以下の構成で運営されている。100人以上は家族会を母体としているため構成が大きくなっている。

2 構成員の平均年齢



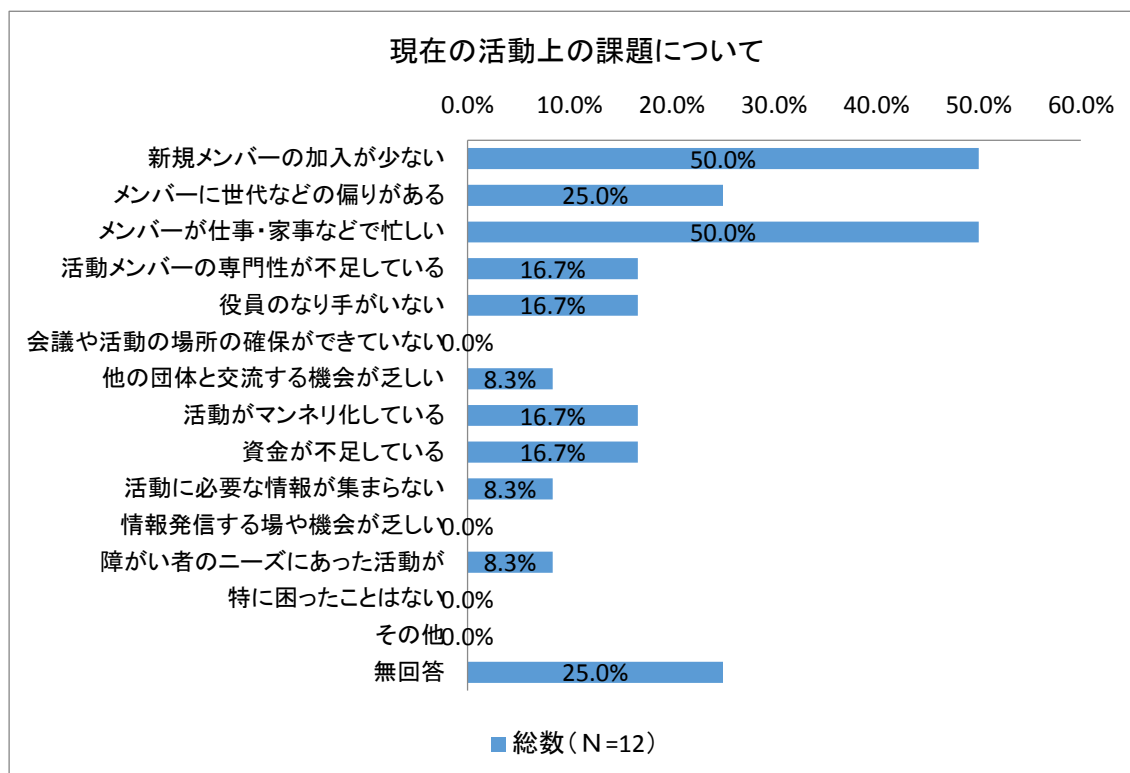
構成員の平均年齢では、「50～59歳」が41.7%、「40～49歳」が25.0%、「60～69歳」が16.7%となっている。「50歳以上」が全体の58.4%を占めていることが分かる。支援団体の構成員は高齢化の傾向にあり、若手スタッフの人材育成が求められる。

3 おおよそ5年前に比べ、構成員の人数に変化はありましたか。



やや増えたと回答する団体もあったが、やや減ったと回答する団体が41.7%で、全体的には構成員は減少傾向にある。支援者の人材育成が団体にとっての大きな課題の一つでもある。

4 現在の活動上の課題について



現在の活動上の課題では、「新規メンバーの加入が少ない」又は「メンバーが仕事・家事などで忙しい」がいずれも 50.0%、次に「メンバーに世代などの偏りがある」25.0%で全体の約半数がスタッフ不足や年齢間の偏りに関するものであった。他には、「活動メンバーの専門性が不足している」、「役員のなり手がいない」、「活動がマンネリ化している」、「資金が不足している」がいずれも 16.7%となった。

5 市全体を見たときに、不足しているサービスや支援はどのようなものでしょうか。

(1) 社会資源の充足と支援の仕組みづくり

本人にとってひきこもり問題はしき居が高い。近い場は不安。でも遠くには行けない、人に言いたくない。これらの壁をこえるのは、親の相談の拡充と本人へたどりつく手立て。本人へ提供できる資源をとりそろえることの、3つと思う。1つ1つがまだまだ不十分な上に流れがうまくゆかない点も大きい。今よりもっと色々な場で相談が展開され資源活用に至る道すじをつくること、同時に手をひらいてこちらですよと励ましながら活用する流れにのせる支援者がまだまだ少ない。人と資源とシステム3つとも不足です。

(2) 学習支援の充実

知多市では、学習サポートという話を聞いたことがありません。不登校の原因は1つでは無いと思います。でもいくつかの中に勉強の部分、理解出来ていないということも多いと思います。

(3) 家族支援の充実

・ピュアサポート親の会がたくさん出来るようなサポート、学校に1つずつあってもいいのではないかと。

- ・ 家族の支援（家族の理解度）、情報の共有、親子関係（バランス）

（４）支援活動団体の PR と支援者の人材育成の充実

活動をしているボランティアの知名度が低いのが感じられ、今以上のPRや研修会、養成講座を開いてほしい。

（５）医療支援の充実

医療支援（心理療法、精神科診断、通院治療）

（６）総合相談窓口の充実

- ・ 取り組みが情報として行き届かない、届いても関心がない。いざ相談というときにどこに行けばいいのか、総合相談窓口が必要。少しでも情報が多くあった方が良い。
- ・ 学校生活、進路、仕事、バイトなど「何か困っている、不安がある。」という状態の時、まずここに行けばどうにかなる。「便利屋的相談サービス」のような常設の場所があるといいのと思います。

（７）広域的な支援体制づくりの創設

隣の地域の情報や他地域の人でもお互いに利用できるようにする。居場所はそれぞれ、ぴったり合うところやきっかけは多い方が良い。

（８）支援者のフォロー体制の充実

経験者のサポートが必要。

（９）一般市民のひきこもりに対する正しい理解の促進

一般の人々の理解が必要。

（１０）居場所の充実

- ・ 気晴らしに気軽に行ける場所が必要。
- ・ 常設の場所があれば、外に出たいと思った時のチャンスを生かせる機会がふえるのではないか。

（１１）訪問支援の充実

相談機関や居場所など、外に出れば利用できるサービスは少ないと思う。そのサービスにつながるには本人と支援者との信頼関係構築には本人との接触が必要であり、その為には本人と出会う可能性が高い訪問サービスの充実が必要であると思う。

（１２）専門的な人材育成と確保

ボランティアでは、限界があり専門の知識を持った人が支援できることが望ましいと思います。

(13) その他

- ・生きる希望をつなぐ支援が必要である。
- ・知多市民ではありませんが、全国的にみても又愛知県の中でも知多市社協は市民の目線に立って、運動を進めてみえると思います。

6 貴団体に寄せられる主な相談内容は何ですか。

(1) 社会資源の活用

不登校、ひきこもりの当事者が居場所「まな」を利用できるか又は他の資源が活用できるかの相談が多い。

(2) 子どもに対する親の対応の仕方

不登校がちなお子さん、ひきこもりがちな若者をどのように親として対応してよいのか。子どもからは何も話さないの、どのように理解してよいか。

(3) 精神保健に関すること

- ・自分自身の病気の事（薬）
- ・精神保健福祉相談（本人、若しくは家族の病気、障がいに関する不安・疑問、医療機関に関すること）
- ・メンタルヘルス相談（本人、若しくは家族の自殺、不登校、ひきこもり、アディクション、発達障がい、漠然とした不安等）

(4) 親からの相談

- ・ひきこもりの子どもの相談。ほとんど親からの相談が多いH25年度の面接相談、本人36名、親260名
- ・長期間ひきこもりをしている方の親さんからの相談が一番多い。
- ・子どもさんと親自身の会話が成立せずに5～7年間過ぎている方。
- ・不登校が1年以上続いている方の親。

(5) 進路と将来についての相談

- ・不登校の子どもの進路先。
- ・進路について。
- ・子供が不登校になった。現在の状態がこれでよいのか、この先どうしていったらよいのか。
- ・不登校生に対しての進学、進路、ひきこもりの方については、アルバイトや仕事についての相談。社会復帰について子どもへの対応。

(6) その他

- ・相談する医療機関が少ない。
- ・医療機関の連携を取って多面的支援を行ってほしい。
- ・相談機関が少ない、就労支援、ハローワーク→偏見なく対応が大切

7 アンケート結果と貴団体の活動を振り返られ、お感じになったことをお聞かせください。
(貴団体の活動の効果や不足している点など)

(1) 居場所運営の課題

- ・利用者メンバーが固定しがち、参加者は親密になってゆくが、新しいメンバーが入りにくい。①居場所へ導入する相談が不足 ②居場所のPR不足 ③個別的ケアのマンパワー不足と専門性の不足
- ・ひきこもり支援は、居場所が大きく影響するので当事者、若者みなさんに聞いてみて、その声に興味があるので、今後お願いしたい。(どんな居場所作りにしていったらよいか)

(2) 支援情報の届け方

- ・不登校とかひきこもりに関して、進路説明会や広く理解してもらう為にセミナー等を行っていますが、まだまだごく一部の方にしか届いていないようです。どのようにすれば、支援の情報が届くのかと強く思います。
- ・「効果」については検証できないので、よくわかりません。「不足」しているものについては多すぎるので…ただ存在をより多くの人に知ってもらうことが大切かなと思います。

(3) 家族支援の課題

- ・居場所「まな」の場合、親の会がないので必要性を感じました。

(4) ひきこもりの高齢化・長期化に対する対応策の検討

- ・ひきこもり状態の年齢の高さと年数の長さ思ったよりひきこもりの問題が深刻だと実感しました。
- ・ひきこもりの状態になった年齢、きっかけ、期間など同じ傾向です。
- ・ひきこもり状態にある方の年代で40代、50代が多く、ひきこもりも高齢化になっていると思われる。年齢が高くなるにつれて、支援機関が減り支援が入りにくくなるので、高齢化に至る前に早期介入か、高齢化に至っても支援できる体制が必要だと思う。
- ・支援団体の存在も知らない方が多いことにちょっと驚きました。もっと広報活動をして少しでも多くの方に知ってもらえることがまずは大切かなと思いました。

(5) 訪問支援と医療との連携

- ・家族関係の事→家族支援、訪問支援が必要
- ・身体的・精神的な不調→医療機関との連携が必要

(6) 他の支援機関との連携による広域的な仕組みづくり

ちらしを作成して配布など情報提供に力を入れているが、一つの団体では限界がある。情報が欲しい人にはなかなか届かない。一般の人、支援者、親、本人のそれぞれの視点からの意見が参考になった。民間では資金面で出来ないことが多いが、行政では充実している。事務的ではなく、寄り添うことが必要である。先生でも親でもない第三者が必要である。アンケートを通じて、自団体の取り組みや方向性について客観的に確認することができた。

(7) その他

アンケートを見せていただき、その人々の立場での意見できびしい声もありました、たしかにその立場になってみないとわかりません。私もわが子が不登校になったから、少しは、気持ちを（家族又は親）わかるつもりではいますし、お役になることがあれば又また不登校になったとき聞いてくれる人がいることで少しホットとなるとの思いもあり参加しています。

8 今後の若者支援、ひきこもり支援施策に求められるものについて

若者を取り巻く現状や身近で感じている課題、知多市に希望することなどについて、ご自由にお書きください。

(1) 保健・医療の連携（障がいの早期発見や療育、医療機関、医療ケア体制についてなど）

小・中学校と市内の他の機関の連携がまだ薄い。医療機関の多忙さや福祉施設の少なさで、身近な相談の場が身近でなく、遠い存在になってはいけないかと思うことがある。学校は父兄とのあつれきがむつかしく、ある程度以上踏み込めない面があり、そのあたりを医療や福祉の場が対応するとうまくいくのではと思うがそういう意味でもっと連携がほしい。

(2) 青年期に対する支援体制の充実

1才半、3才の検診で、やまももや支援センター等につながって、指導をうけている方がいますが、親が拒否したり、色々な事情で続けられなかったり小さい人には行政としては指導されていますが、大きくなれば大きくなる程、支援が少なくなったり無かったりと、小学校・中学校・高校と学校の先生達の考え方で、理解のある所と無い所 寒暖の差が激しいと思います。スクールカウンセラーの子どもへの対応も同じです。

(3) 専門員による支援体制

療育は、随分行っていただけのようになりましたが、親さんとしっかり話が出来、障がいの意味をよく理解していただく事が大切が必要です。専門の知識をもった方がよくわかる様に伝えてあげてほしい。

(4) その他

・講演会、セミナーを継続的にお願いしたい。連携方法も考えていただきたい。「診断と薬について」お話をいただければと思います。

・医療機関 たくさんありすぎて、迷っている方がおおくあるのでは？

・医療ケア体制について、ケア体制は本当に必要です。本人に寄りそって信頼関係を築きながら実施してほしいです。つつい上から目線や一方的な場合が多いと聞いていますが…人によってでしょうから仕方が有りませんが。

・アンケートから医療機関に相談している方も多く、医療機関も含めた情報共有、支援体制を築いていくことが必要。

9 生活環境の整備について

(日中の居場所、日中活動に関するニーズ、若者の集うイベントの充実など)

(1) 常設の地域支援センターの設置

- ・常設の場、手帳がなくてもふらっと集う場がほしい。誰でもあつまれる地域支援センターのような所はつくれませんか。
- ・自分を必要とされるものを彼等は求めている気がします。単純な作業でも、誰かの役に立っている。重労働でもやれる気がします。何か彼等に出来ること。
- ・人材と資金が無い為、月一回の居場所を実施していますが、当事者の体調や気持ちを考えて、ほぼ毎日開いていると良い。せめて週1回実施出来ると良いと思います。
- ・居場所が必要だと思いますが、「いかにもひきこもりの方の居場所」という所には行きたくないと思うので宣伝に工夫が必要かもしれません。

(2) 就労支援の充実

就学、就労支援→ジョブカフェ、長期的プランが必要→就業的自立

(3) その他

- ・本人のニーズと居場所が持っている機能とのミスマッチが少なからずあると思うので、それらをいかに解消していくかが必要だと思う。
- ・予算が必要だと思いますが、どこも厳しい状況なのでは。

10 相談・情報提供について

(訪問支援、相談体制、情報提供体制、支援者ネットワークなど)

(1) ワンストップ相談体制の構築

ワンストップ的な機能を持つ相談支援体制を構築する必要がある。

(2) 支援者間のネットワークづくり

必要があってその家を訪ねるヘルパーさん達からの情報がとても大きい気がします。(秋田の事例)で、あのようにつながって、本人が必要とされるボランティアや仕事につながってできれば。

(3) 総合的な支援の展開

- ・訪問支援・学習支援(貧困支援)・家族との対話・学習教育(対人関係を再築)・家族支援・コミュニケーション(信頼性)・同意確認(信頼関係)・情報の共有化(理解度)
- ・偏見のない対応(相談)・親子のバランス(関係)・家族の理解自立へ

(4) 訪問支援の必要性

- ・訪問支援の方法、研究、全国的実践例からあまりありませんが学ぶ。
- ・訪問支援はむづかしい事ですが、家庭での様子(本人に会えなくても親さんと話をするだけでも家の空気が変わる気がし、そこからなんらかの糸口がつかめるかもしれない。でもまだ…そこまでの力が無いです。)

(5) その他

- ・ひきこもりは、一朝一夕には解決しない課題であるので、本人、家族、支援者も粘り強く時間をかけながらやっていくという気持ちが必要であると思う。(特に家族が支援からドロップアウトをするのを防ぎたい。)
- ・ボランティアで支援活動している私ですが、ご近所に心配な方がいてもなかなか声かけには勇気がいります。相談されれば話しは聞いてあげたいし、相談する場所もアドバイスしてあげたいと思いますが。
- ・小中学生だとまだ分かるようなこともあります、なかなか自分から相談や訪問難しいですね。

11 雇用・就労について

(雇用・就労の促進、就労支援、定着支援、地域の中の働く場の創造など)

(1) 中間的就労の推進

- ・中間就労がぜひ拡大してほしい。体験の場の開拓と紹介をいろいろな現場で行えるようにしたい。現状はあまりにも少ないし偏りがあるので。
- ・「サポートちた」のように職場のスタッフの理解があつて、気長にボランティアから職場体験が出来て、そのあと仕事につながるような所が、もっとたくさん増えるといいと思います。他の製造分野でも。
- ・就労体験の場を今以上広めてほしい。PR等を梅まつり、フェスティバル等で、例えば産業まつりでの商工会のお手伝いをボランティアと共にするとかで体験させてもらえるとうれしいです。

(2) 就労支援する人材育成

主導者の人材育成(ワンツーマン)

(3) 行政・企業・支援団体の連携

行政・企業団体(中小企業家照会)・支援者団体(NPO等)の連携が必要(中間的就学・体験など)

(4) その他

- ・その人その人によって違うので・・・でもそうした場があり働く為の援助をしてくださる方がうまく働けるまで一緒に支援下されるとひとり一人自信を持って働けるといいです。第一歩が大切と実感しています。
- ・いきなり正社員はムリでしょうから、スキルアップできる研修、講習会を定期的実施していくことが大切。
- ・本来なら、一般の社会で仕事をするのが良いのですが、なかなか難しいですね。訓練ではないですが、理解のある方々や仲間では仕事場があったらいいですね。
- ・正しく理解し、偏見を持たず温かく見守る。

12 ひきこもり理解と交流について

(ひきこもり理解促進について、一般の地域住民との交流・ふれあいについて、ひきこもり支援、ボランティアについてなど)

(1) PRの工夫

チラシの配布を続けることは意味がある。一方で、ポスターを作ってスーパーや公共機関に貼る方が常設的なPRにならないか。市のホームページでももう少し工夫を。

(2) 地域の人々との交流

農家の方が技術や知識を若者に指導、若者は力仕事等でお役に立つ、こういう循環が、色々な分野で増えればいいと思います。

(3) 研修会の開催

・1年に2～3回、講座や講演会を実施しています。もちろんなたでも参加出来る様に考えていますが…時には支援者養成講座も必要です。実体験が大切ですが専門家の方々に質問したりアドバイスをいただく事も必要だと思っています。

・とてもデリケートな問題だし、中途半端なかかわりでは、かえって傷つけてしまうのではないかと思っています。講演会、広報活動を通して、一般の方達にわかってもらう。

(4) その他

・先日の内閣府の講座の終了者の方々のその後の講習会や交流会を開催し、ひきこもり支援に導ける受け皿を作ってほしい。

・理解度・家庭の支援(正しく理解し適切な評価)・包括的な支援が必要

・居場所に来ている若者に、交流・ふれあいなど聞いてみる。

・今は、前よりひきこもり・不登校について、少しずつ変化してきていると思う。

13 教育について(学習支援、特別支援教育、就学・進路指導の充実についてなど)

(1) 学校・行政・支援団体との連携

・小中学校での問題をくいとめて、長期にわたるひきこもりにならないよう手を打ちたい。きれめのない相談支援が現実的にどういったらよいか。学校と適応指導教室と社協と行政などとの連携があるとベターではないかと思う、高校で失敗した後すぐ相談にもちこめるように。

・小中学校から不登校によるひきこもりについて、学校と家庭の密な関係、体制が出来ればと考えます。

・高校、大学の中退者の支援が充実するとよいと思う。

(2) 市民を巻き込んだ支援体制づくり

・勉強を遅れ気味の子、不登校気味の子に、サポートしてくれる大学生等、大学に依頼して、募集してみて、社協のお部屋で、毎週勉強を教えてもらったり特別支援教育についても中学生や高校生にもボランティア体験をさせて障がいについても理解させたり、本人・家族だけの理解だけでなく市民皆が理解してサポート出来る町に。

・現役の学生さんの学習支援になにに単位で何かができる良い策があるといいですね。

(3) 不登校への支援体制の強化

中学校の不登校の子に対する対応に力を入れて欲しい。

(4) 学習支援

- ・各大学生・大学院生の方の協力を願って、ゆっくり、あせらず楽しい学習方法で効果を上げる、たまにはみんなで遊びに行く。遊び通して効果を上げる。
- ・わが子が不登校になって思ったのですが、“タッチ”に行っても勉強のサポートはない、先生にいわれたのは塾か家庭教師も・・・となかなか本人が会うことも大変で探すのが、難しかったです。もう少し勉強を教えてもらえる環境が欲しかったです。

(5) その他

- ・今後の必要を十分に考えられますが、ボラグループの私達の力では今が精一杯かな？まだまだ仕事を持つ会の会員が多い為ボラ活動の中ではなかなか出来ません。
- ・不登校生への進路情報を必要としている方がいると思うので、昨年度同様進路相談会は、必要です。
- ・特別支援が必要となる場合の窓口はどこなのでしょう？悩んでいる親は多いと思います。

14 家族支援について（段階的な家族支援の場など）

(1) 多様性のある家族支援の展開

- ・トウモロネット 1/月 19:00~21:00 に参加している。ケアの本質は中学生も 20代 30代もかわらないが、親にとってはかなり違いがある。特に 20代 30代の親はひきこもり度の強い人との毎日で、つかれはてておりその苦しさを共有する場がもう1つ必要な気がする。
- ・同じ悩みを持つ親のピュアサポート、その親と一緒に援助してくれる専門職とのカウンセリング。専門職、親、ボランティアとの連携し行うサポート。是非作ってほしい。

(2) フォーマル・インフォーマル支援の連携

実際にいろいろなケースを検討し持っていますが専門的知識が無いということで、少し難しいケースは、資格の有る方に頼まれる事が多く、その後の状況がわからない事が多いです。そして、大変になってくるとボラに回される事が多くて資格の有る無しは大切ですが経験している人の声も聞いて下さり一緒に考える必要性を感じます。ボラの役割はなんだろう…と感じるこの頃です。すごく調子よく使われているな一感じるこの頃です。

(3) 対象者の段階に合わせた家族の集いの場

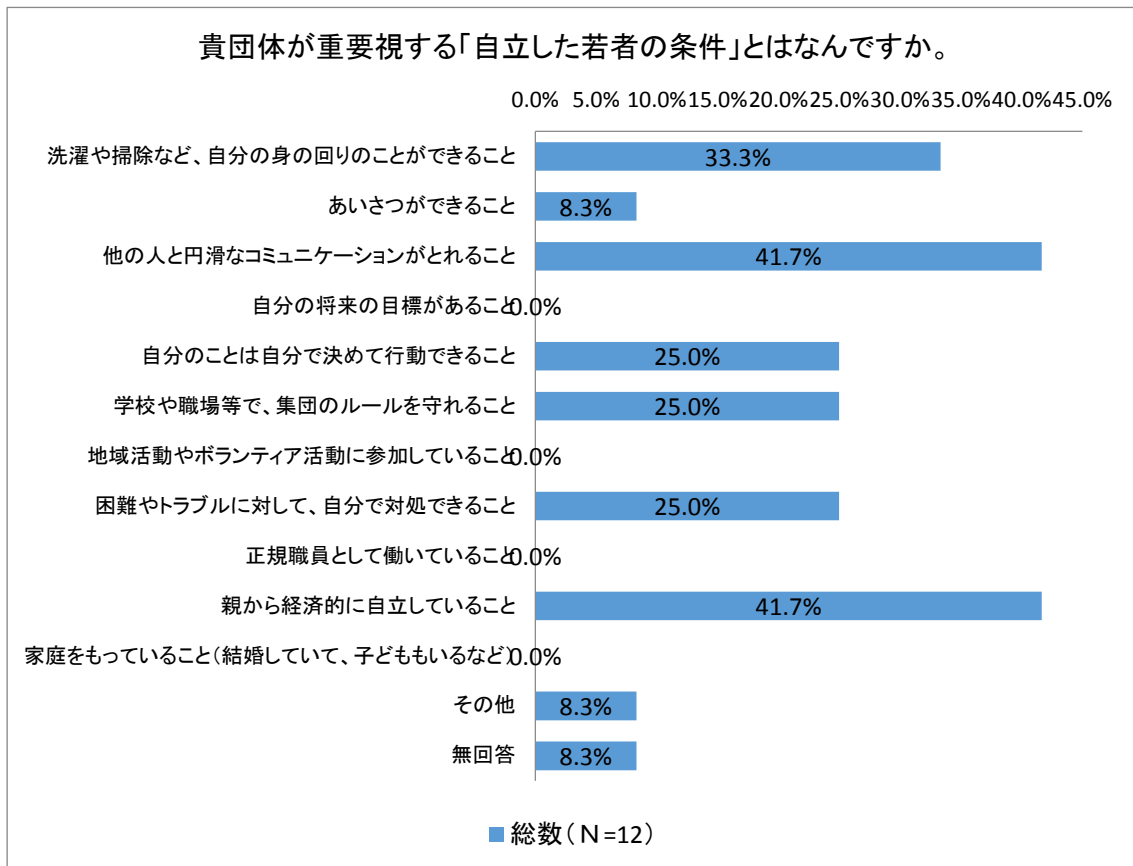
家庭にはひきこもりへの理解、関わり方、相談機関の周知を行い、家族だけで抱え込まないようにしていくことが本人支援にもつながることだと思う。苦しんでいる家族の方々の支援はとても大事だと思います。家の中の雰囲気（本人が受け入れられる）が変わると本人も必ず良い方に向かっていくので、困っている家族の方が話しに行きたいと思う場を提供できるとよいと思います。

(4) その他

- ・家庭支援・訪問支援・家族とのコミュニケーション（信頼関係）
- ・情報の共有化・親子のバランス（親子関係）・家族の理解（教育）・家族の自立
- ・親の会の必要性（なでしこの会などを紹介して下さい。）まずは、家族教室を作っていく。
- ・私自身中学校のカウンセリング活用させていただきました。3年間だけど卒業してどうしようとも思ったこともあります。

15 若者に対する貴団体の意識についてお聞きします。

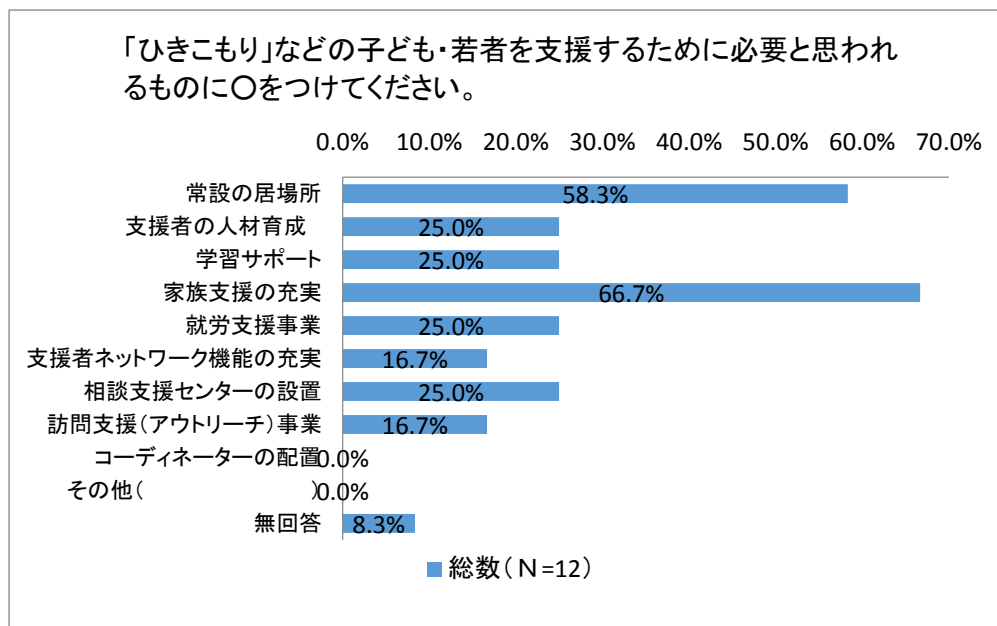
(1) 貴団体が重要視する「自立した若者の条件」とは何ですか。



「他の人と円滑なコミュニケーションがとれること」及び「親から経済的に自立していること」がいずれも 41.7%、「洗濯や掃除など、自分の身の周りのことができること」33.3%、「自分のことは自分で決めて行動できること」、「学校や職場等で、集団のルールを守れること」、「困難やトラブルに対して、自分で対処できること」がいずれも 25.0%となった。

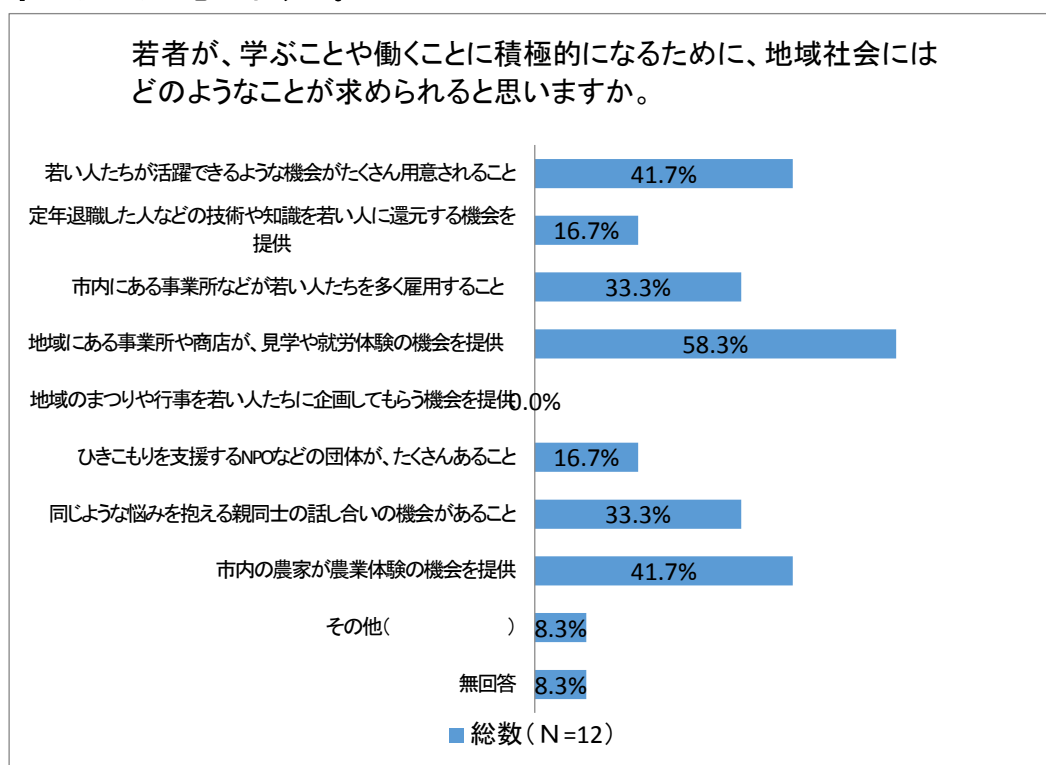
支援団体側からの「自立した若者の条件」では、コミュニケーションや身の回りのことができるなど日常生活に必要なスキルを重要視されている。

(2) 「ひきこもり」などの子ども・若者を支援するために、特に必要と思われるもの



「家族支援の充実」66.7%、「常設の居場所」58.3%が上位を占めた。特に家族支援の充実が66.7%と多く、本人支援と併せて家族支援の必要性を強く感じていることが分かった。家族は支援者ではなく、本人と共に支援を受ける主体であることを重視している。

(3) 若者が、学ぶことや働くことに積極的になるために、地域社会にはどのようなことが求められると思いますか。



「地域にある事業所や商店が、見学や就労体験の機会を提供」58.3%、「若い人たちが活躍できるような機会がたくさん用意されること」又は「市内の農家が農業体験の機会を提供」がいずれも41.7%、「市内にある事業所などが若い人たちを多く雇用すること」又は「同じような悩みを抱える親同士の話し合いの機会があること」いずれも33.3%となった。

雇用に対しての意識を少し持ちながらも大半が、見学や就労体験、農業体験のように社会参加を徐々に進めていくために「見学や体験」を重要視していることが分かった。

16 その他、ご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

(1) 切れ目のないネットワークづくり

・ひきこもり問題は、多くの時間と人の思いとエネルギーが必要です。持続する支援はとてもきびしいものです。親と支援者がシステムやネットワークに支えられて助け合いながら安心して一歩ずつ歩んでいけるようにしたいです。

・長期になってしまったひきこもりさんについて家族支援からじっくりとやり、親の介護や経済問題まで視野に入れてとりくみたいですね。

・20代前半～後半の方について

個別相談→ミニG→中間就労→職場体験→アルバイト この流れがスムーズに行くようシステムを作れたらと思います。

・中高校生の不登校の方について

学習サポートしながら高卒資格のとり方（編・転入など）の最近の情報が困っている方に入るようにできれば、中学生の不登校生は一番のチャンスなのでしっかり学習サポートして合った進路を見つける手助けがきたらと感じます。

中学校の不登校がひきこもりにつながっているようで心配します。

(2) 本人へ届ける支援

・情報については、発信してはいるが効果的ではない。しかし、効果てき面といった宣伝方法も考えにくいので、やはり地道に継続していくことが大事かと思っています。受け取る側にも関心がない。いざ困り事があつたときの相談先として思い出してもらえるようにしたい。相談先が教育委員会では敷居が高い。身近に相談できる人がいてほしい。または、そこまでつなげてくれる人が必要だと思っています。まずは経験者によるピアサポートの人材を育成したい。支援する側は就労支援が大事だというのが、本人にとっては、就労はまだ先のこと。本人はひきこもりで苦しんでいるときはそっとしておいて欲しいが、なんとか助け出して欲しいと思う時期もくる。手を差し伸べる支援、本人に届く支援のための準備が必要だと思っています。そのためには、本人にエネルギーがたまるのを見守りつつ、直接支援できる体制を整えるための情報を集めることも重要かと思っています。家族支援、親支援、ピアサポート人材発掘、訪問スキルアップ、専門家やアドバイザーとの関係構築など。挑戦心が沸ききっかけはさまざまだと思いますので、すべてのことに無駄なことなどないと思います。厳しい意見や批判的な意見については、当事者目線ではなく、どこか他人事であると感じました。知多市をつくっているのは知多市民であり、知多市の子ども・若者の問題は市も市民も同じ立場で前向きに考えて意見して欲しいと思いました。民間は資金がない中でがんばってやっていると思いますが、できる範囲が限られています。行政の役割は重要、専門家に助けてほしい人はたくさんいる。アンケート調査は無駄という意見が少なからずありましたが、無駄ではないと思います。厳しい意見の中でも、当事者の意見はとても参考になりました。学校、職場での人間関係が原因でひきこもってしまうケースが多いと感じますが、信頼を取り戻すには時間がかかり、友人や先輩など信頼できる人が必要であると思います。親の躰の厳しさ、家庭内孤立、就職活動がうまくいかなかった、職場の人間関係など調査の結果は宝物で、分析のためのよい材料となりました。家族関係ひきこもり親和群への対策も考えないといけないのではないかと思う。配偶者や親、友人知人などへの理解の促進など、現在ひきこもり状態にある人と、親和群の人はそれぞれ心

の持ち方が違い、支援法もちがつてくると思いました。

(3) 他機関との連携

保健所においてひきこもりの相談を実施していますが、広域であることから細かな支援となると困難になってしまいます。そのような時、市や社協の支援者の方々と連携して支援できればと思っております。

(4) その他

・いつも大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。今週の水曜日は滋賀県社協、来週の木曜日は兵庫県豊岡市社協の方々が見学にみえます。なでしこの会も県から市町村へ管轄が変わるので、FNSの状況がどうなるかわかりませんこんな状況を各県のみなさんにもお話がしてあるのに、今まで実践の話を聞きたいということで、来訪していただけます。水曜日の滋賀県社協の方は、13名も大型バスでみえました。次の日のメールで大変感動したと連絡がありました。その中でも強調しましたが「常設の居場所の必要性」です。これによってひきこもり等の支援は、少しずつ進むことがわかります。ひきこもりの子どもをもつ親の会「親の会」ですので限界があります。やはり、行政の力が今後、大きく必要になると思います。よろしく願います。

・ボラ活動の必要性は、重要ですが、この支援活動については、資格を持っている方とそうでない方のあつかい方がとても差を感じます。社協のボラの方を利用する方法を一緒に考えられる事を希望します。お金で言うのは変かもしれませんが、講演会、講座の裏方の力と存在をもっと考えなければボラ人口（特にこの種の支援）は増えませんよ。そしてボラの意識も変わりません。「自分の都合が悪ければ欠都合の良い時だけ・・・」とすることで継続的な活動をする人はいなくなります。（少しくなります。）知多市はわかりませんが、何か良い方法を考えなければね。

つぶやき（例えば講師の方との打ち合せ講師には運賃がつきボラは何にも・・・だったら「ボラ活動をやめたら・・・」本当にそう思いますがやはりTELが鳴ると動いてしまう私達これがボラの役割でしょうか??）”

・ひきこもり傾向にあり、長期にもなっているがどこかで相談をしたいとは思わない割合が多い（調査表問21）。相談したいところは病院。

・どのようにしたら「相談」→動き出せるのでしょうか、まずは家族なのでしょう、その家族からどのような情報があれば本人の次の一步につながるのかよくわかりません。

・その場にならないとわからないことではありますが、残念な意見もありました。私もわが子が、不登校にならなかつたら理解することが、出来なかつたと思います。ただ、相談というより私は、話を聞きたい、聞いてほしいまた今は私の話で参考になればとの思いもあり、家族サロンに参加しています。